

## 8. 噴煙上昇と屈曲： 2019. 11.6\_15:38

気象台のリストでは、南岳火口から噴煙高度3000mの爆発があり流向Nとある。B, T 2点での撮影を検討する。

### 8-1. B点から



B 1 [\\_154009e](#) e= Olympus-μ4



2 [\\_154210ec](#)



3 [\\_154736erc](#)



4 [\\_154858e](#)



5 [\\_154934e](#)



6 [\\_163917e](#)

### 8-2. 垂水から

錦江台データは欠測。垂水市役所の屋上への階段では、窓ガラスに低い太陽が写りこむ時期なので、部分表示にした。珍しく垂水が風上になるケースで、ここに示す16,17時の間に上のB6の時刻がある。17時、山頂から右上に見える最高部は東方と思われる、対応する部分はB6にもあるが、レーダでは北寄りのほか検出されていない。15:38以後、リストにあるのは16:24 GW 3 南岳火口から噴煙高度1200mの噴火、流向Tだけなので、最高部は15:38爆発の残滓だろう。



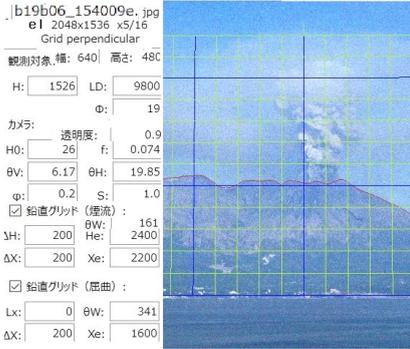
[T\\_16rd](#) right down



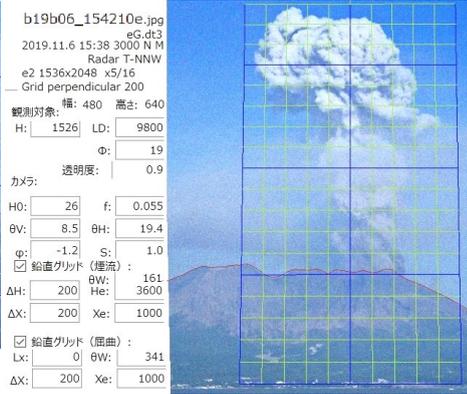
[T\\_17r-rd](#) rot-right down

### 8-3. B点撮影の写真解析

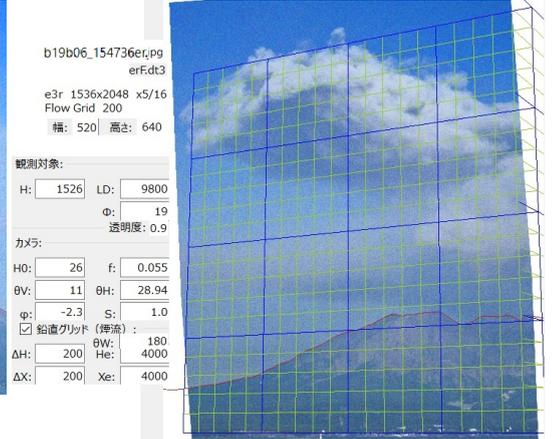
B1,B2では2つのグリッド(屈曲・煙流)を煙柱軸とカメラを結ぶ線に垂直に左右に描く直交グリッドGを用いた。B3からB6は北に向かう煙流グリッドFを用いた。噴煙高度3000mに対応する海拔高度4000mがFのトップで、写真の噴煙最高部によく対応している。



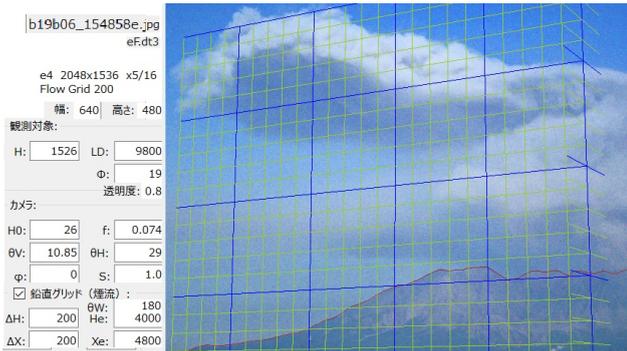
B 1 [\\_154009eG-c](#)



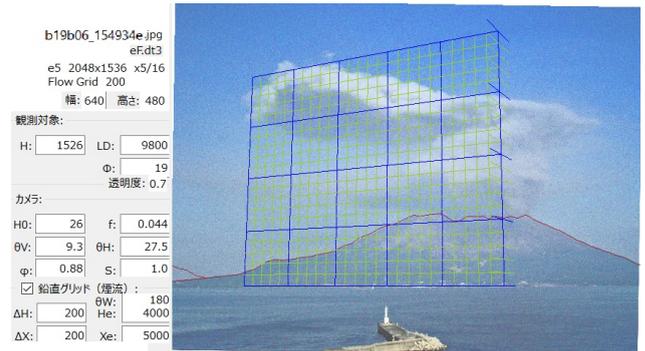
2 [\\_154210eG-c](#)



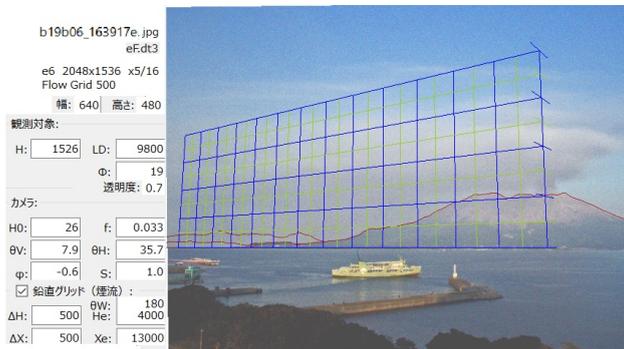
3 [\\_154736eF](#)



4 [b19b06\\_154858eF](#)

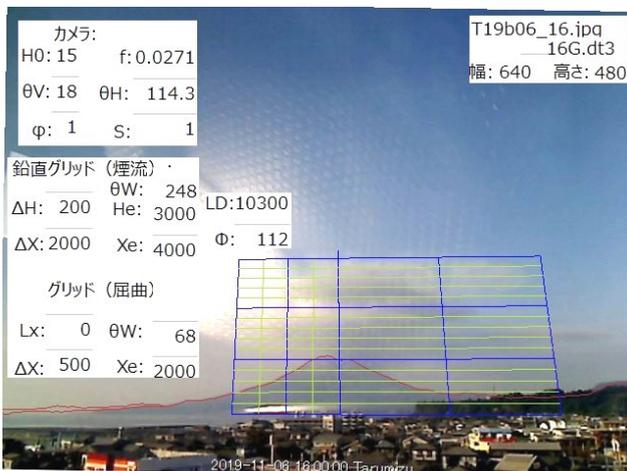


5 [b19b06\\_154934eF](#)

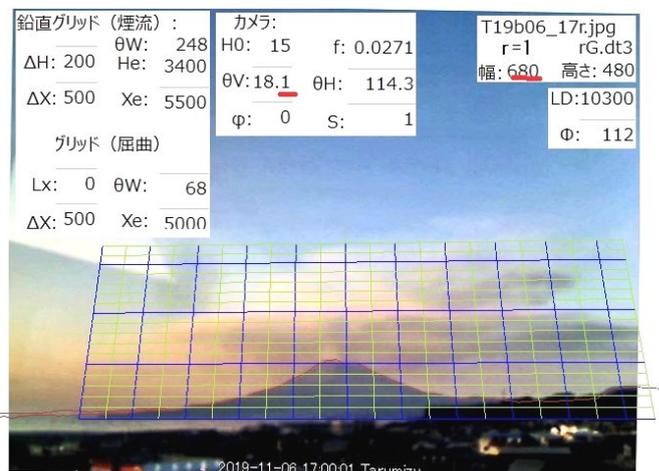


6 [b19b06\\_163917eF](#)

8-4. T点撮影の鉛直グリッド 南岳火口(φ=112°)に対応する直交グリッドGを用いた。



[T\\_16G](#)



[T\\_17rG](#)